

哲学思想基本研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

山口 裕之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには、さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした、「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは、そうした「思考の前提」を問い直し、明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで、思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究。毎回、担当者を決め、担当箇所の概要、議論すべき論点、疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【先行科目】『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2), 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9)

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.3)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと。毎回の授業で、関連する文献を紹介します。また、研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを入手し、読み、報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊、できれば週に 1 冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】

1. イントロダクション:授業の説明など
2. 第 6 章交換すること (1)
3. 第 6 章交換すること (2)
4. 第 6 章交換すること (3)
5. 第 7 章表象の限界 (1)
6. 第 7 章表象の限界 (2)
7. 第 7 章表象の限界 (3)
8. 第 8 章労働, 生命, 言語 (1)
9. 第 8 章労働, 生命, 言語 (2)
10. 第 9 章人間とその分身 (1)
11. 第 9 章人間とその分身 (2)
12. 第 9 章人間とその分身 (3)

13. 第 10 章人文諸科学 (1)

14. 第 10 章人文諸科学 (2)

15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること, 3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】なし。

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218878>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)